

アジア情報室が行う連携協力活動 －アジア資料・情報の有効活用のために－

平成30年3月6日(火)

平成29年度アジア情報関係機関懇談会

富田 圭一郎(国立国会図書館関西館アジア情報課)

目次

1. アジア資料・情報の有効活用とは
2. アジア情報の調べ方に関する研修
3. 大学教員、関係機関との連携協力
4. まとめ

1. アジア資料・情報の有効活用とは

- 考え方

コアとなる利用者が、調査研究のために活用すること

- コアとなる利用者とは

アジア地域に関する各分野を調査研究し、かつ、
日本国内でアジア言語資料・情報入手しようとする人
(大学教員、院生・学生、調査研究部門の担当者等)

* 但し、研究者や博士課程以上の院生は、現地での調査・購入を重視する人が多い

1. アジア資料・情報の有効活用とは

- 有効活用してもらうための方法

- ① コアとなる利用者の情報ニーズや利用目的を知る
- ② それをふまえて、継続的に関与・サポートする

⇒ アジア情報室の取組

- アジア情報の調べ方に関する研修の改善、拡充
- 大学教員や関係機関との連携協力

(参考)アジア情報室の概況

国内有数の規模のアジア言語資料を所蔵(図書約46万冊、雑誌・新聞約9,000タイトル)、但し、貴重コレクションなし、大都市中心部からやや遠い、組織内に固定利用者(研究者、学生等)なし

2. アジア情報の調べ方に関する研修

【ポイント】

- アジアに関する信頼性の高い情報が、アジア情報室の利用者だけでなく、社会で広く活用されることが目的
- 図書館員(提供側)だけでなく、研究者・大学院生、公務員・会社員等(利用者側)も対象
- 「食材の提供」(ツールの紹介)よりも、「料理の体験」(情報の入手・判別の実習)を重視

2. アジア情報の調べ方に関する研修

2.1. アジア言語の知識がない人向けの、裾野を広げる研修

平成25年度アジア情報研修「日本語及び英語で調べるアジア情報」
平成26,29年度「レファレンス・サービス研修」で、同様の科目を開講
このほか、ご要望に応じて、講師派遣型の研修も実施

2.2. 一次情報を調べる実習を行う、積極参加型の研修

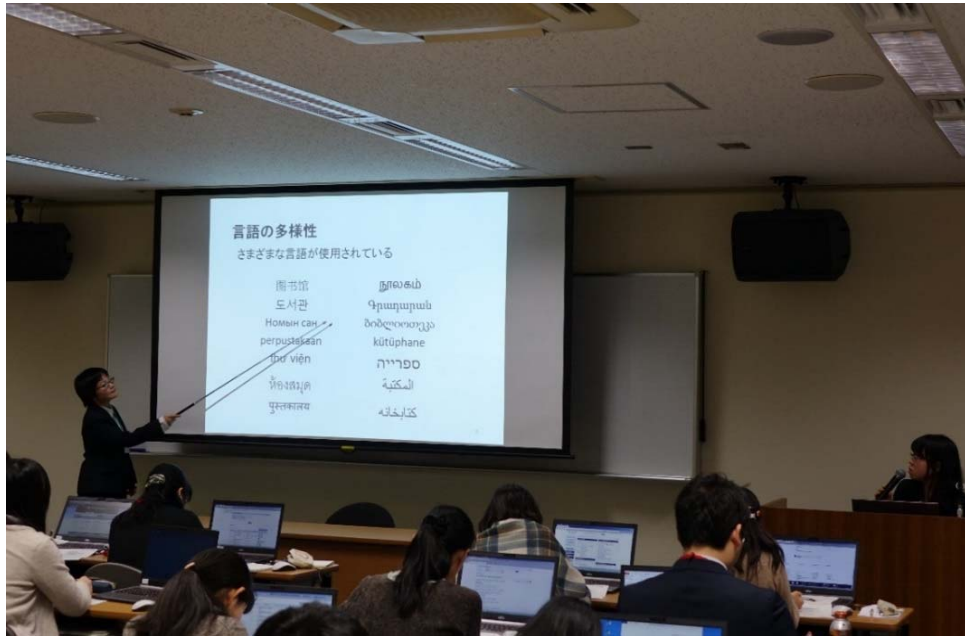
ジェトロ・アジア経済研究所との共催で、アジア情報研修を実施

平成27年度「中国と東南アジア諸国の政府情報を調べる」

平成28年度「韓国の諸制度と統計を調べる」

平成29年度「台湾情報の調べ方～諸制度と統計を中心に～」

*「リサーチ・ナビ」で情報公開 <http://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/asia-workshop.php>



レファレンス・サービス研修
(平成29年12月、国立国会図書館東京本館)

講師派遣型研修
(平成30年2月、福山市立大学)



アジア情報研修でのグループワーク（平成27年9月、アジア経済研究所）



- 👉 アジア情報室、アジア経済研究所図書館
受講者の情報ニーズや利用目的を知る
受講者との人間関係を築く
- 👉 受講者
2つの機関から、情報入手・活用ノウハウを得る

3. 大学教員、関係機関との連携協力

【ポイント】

コアとなる利用者と身近に接している教員や機関との、互いにメリットをもたらす連携協力

3.1. 来館ガイダンス (天理大学国際学部長森ゼミ等に)

大学教員は、あらかじめ学内の各種図書室・図書館と国立国会図書館アジア情報室の特徴、使い分け、利用方法を指導

アジア情報室は、国立国会図書館の資料検索・利用のコツを解説

3.2. 合同利用(出張)ガイダンス (大阪大学附属図書館外国学図書館と)

大学図書館は、教員の要望に応じて、ゼミごとに対象言語資料の検索・利用方法を案内

アジア情報室は、現地に出向いて、大学図書館との使い分け、国立国会図書館の資料検索・利用のコツを解説

3. 大学教員、関係機関との連携協力

3.3. アジア研究文献探索セミナー（東京大学附属図書館で）

同館アジア研究図書館（U-PARL）の研究者等が、アジア研究に必要な文献の探し方を、東大の院生・学生や学外者に解説

アジア情報室は、AsiaLinksをゲートウェイとして、効率的に各国の一次情報を収集する方法を解説 <http://rnavi.ndl.go.jp/asia/entry/asialinks.php>

👉 アジア情報室

利用者の情報ニーズや利用目的を知る

👉 大学教員・関係機関

学生等の情報入手・活用能力が向上する



アジア研究
文献探索セミナー

「日本語と英語で収集する
全アジア情報」編



平成28年12月, 同30年1月
東京大学附属図書館

<http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/20161222>

<http://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/archives/japanese/20180118>



3. 大学教員、関係機関との連携協力

3.4. アジア諸言語資料の書誌作成に関する情報交換会

(大学図書館(大阪大学、名古屋大学、南山大学)、公共図書館(大阪府立、大阪市立)、アジア経済研究所、京都大学東南アジア地域研究研究所等と)

書誌作成と公開は、有効活用のための大前提

中国語、朝鮮語以外のアジア諸言語の書誌作成は、各館で滞りがち

これを少しでも促進するため、各館の業務ノウハウを互いに紹介

(これまでに、ベトナム語、インドネシア語について実施)

👉 各館が、アジア諸言語資料の書誌作成ノウハウを獲得、継承



平成29年11月
名古屋大学附属図書館



平成29年11月
大阪市立中央図書館

4. まとめ

アジア情報室は

- 日本国内におけるアジア関係資料・情報の有力な拠点
- 資料を収集し所蔵するだけでなく、アジアに関する**信頼性の高い資料や情報が、社会で広く活用されることを重視**

大学図書館や専門図書館は

- 大学教員や関係機関との連携により、コアとなる利用者の情報ニーズや利用目的を知り、業務ノウハウを得られる
- 上記を基盤として、コアとなる利用者の情報ニーズに応えるサポートを、**継続的かつ能動的に行える**のではないかと